

第1回 八尾市総合計画審議会 第3部会 議事録

日 時：令和元年11月18日（月）18時30分～20時45分

場 所：八尾市役所本館8階 委員会室

出席者：初谷委員（部会長）、熊本委員（副部会長）、久保委員、田中順治委員、西田委員、
藤本委員、新福委員、植島委員、轉馬委員

欠席者：岸本委員、川崎委員、神原委員

1. 開会

事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまより「第1回八尾市総合計画審議会第3部会」を開催させていただきます。

2. 委員紹介

3. 議事

それでは、これからの議事進行につきましては、部会長にお願いしたいと思います。初谷部会長、よろしくお願いします。

初谷部会長

昨年度、このメンバーで第5次総合計画の総括をさせていただき、全般的な事項についての提言、地域のまちづくりについての提言をさせていただきました。7月の全体会では、市長からこの総合計画にかける思いを承り、本日を迎えております。本日より専門部会に分かれて議論を深めてまいりたいと思います。効率的に中身のある議論をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

（1）八尾市第6次総合計画の策定にかかる審議会の進め方について

初谷部会長

本日の会議は第1回目ですので、当審議会における部会の役割と今後の進め方について説明していただき、部会として共通認識を持ったうえで、今後の具体的な議論に入りたいと思います。それでは、進め方について事務局より説明願います。

事務局

(資料 1、2、4、5 説明)

初谷部会長

本日は、資料 2 の「Ⅲ. 八尾市の将来について」の「1. 将来都市像」、「2. まちづくりの目標と取り組み方向」についてご感想やご意見を伺い、続いて「Ⅵ. 施策」について先にご意見を伺います。その上で、第 2 回以降の部会で基本構想に戻って詳細に議論するということです。

確認しておきたい点などはありませんでしょうか。

(意見なし)

(2) 八尾市第 6 次総合計画（行政素案）基本構想について

初谷部会長

事務局より説明願います。

事務局

(資料 2 説明)

初谷部会長

第 6 次総合計画（行政素案）では、八尾に関わる全ての市民が幸せを感じられるまちをめざし、基本構想では、あるべき姿としての「将来都市像」とそれを実現するための 6 つの「まちづくりの目標」が示されています。また、今後この総合計画を市民と共有し、ともにまちづくりを進めるにあたって、「市民にとって分かりやすい表現になっているか」、という視点で審議いただきたいとのことでした。また、そもそもこういった内容で良いのか、という点も含めてご意見があるかと思います。

なお、審議会の進め方においても説明がありましたが、本日の部会 1 回目及び 2 回目の審議を終えた後、改めて基本構想について審議を深めますので、まず始めは、基本構想の「Ⅲ. 八尾市の将来」について、率直なご意見、ご感想をお一人ずつお伺いしたいと思います。

将来都市像や、6 つのまちづくりの目標、そしてその取り組み方向などについて、委員の皆様が事前に目を通していただいた中でのご意見、ご感想を共有した上で、基本計画の審議を進め、最後の 3 回目に改めて基本構想の審議を深められるよう、進めたいと思います。なお、時間の都合により、大変恐縮ではありますが、ご意見はお 1 人 2 ～ 3 分程度でお願いします。それでは、久保委員から、いかがでしょうか。

久保委員

産業の発展や人口など数に表しやすいものだけを追い求めるのはよくないというのは賛

成です。都市部、地方都市についても幸せをどう感じるかに着目しているのは、よいと思います。問題となるのは、全市でこれに関わっている人がいかに納得されるか、共有できるかということが重要なため、そこにどうつなげていくのかという点に注力しなければならないと思います。

16 ページにSDGs のことが記載されていますが、地域外の人にもイメージしやすい尺度が必要です。先ほど数を追いかけてはならないと申しましたが、「つながりが増えた」などの、市民にとって増減が分かりやすいものがあつたほうがよいと思われるため、考え方と測定可能なKPI とのバランスを考えながら、内容を分かりやすく整えていくべきだと思います。

田中順治委員

八尾市の将来にとってこれだけよいことが実現できると、人口が減ることはないだろうと思います。

八尾市には 750 地区の自治会があると聞きますが、そのうち約 2 割の 150 地区は自治振興委員が 1 年で辞められて交代されると聞いています。一昨年あたりから雨の降り方も異常になり、先日の豪雨の被害を受けたところでは、いまだに復旧できていないところもあります。防災のことを考えても、自治振興委員には最低でも 3～4 年は務めていただきたいと、以前から思っています。このようなことも考えていただきたいと思います。

文章としてはよいことが書かれていますが、実態と合っていない印象があるため、自治振興委員のことを検討していただきたいと思います。

初谷部会長

久保委員からは指標のような測定可能な視点も加味してはどうかというご提案、田中順治委員からは、5 ページの「②もしもの時への備え」については、実態を踏まえるとこの表現でよいのかという問題提起をしていただきました。

西田委員

自治振興委員会のお話も出ましたが、加入率が減っていく中、もっとできることはないかと思いながらも、なかなか進めていないのが現状です。「つながる」というのがもっとも大事なところで、これを続けていくのはよく分かります。しかし、「幸せ」については、何をもって幸せというかは、個人個人で異なります。ここでいう「幸せ」とは何を意味しているのだろうと疑問に思います。町会未加入の人も幸せで、「そのほうが幸せ」という人もおられます。自治振興委員のあり方を検討していくという方向になっていますが、同時に校区まちづくり協議会とどう付き合っていくかが課題です。今まで校区まちづくり協議会は、地区福祉委員会と同じである考え方をしていましたが、そうではない考え方もあります。自治振興委員会の加入者に視点を置いたまちづくりを考えなければならないと思いま

す。「幸せ」という言葉に少し違和感をもっており、果たして市民に伝わるのか不安に思います。

藤本委員

私も西田委員と同じ意見です。「成長」は定義の説明があったため、何を意図しているかは分かりましたが、「幸せ」は多様なので、何ををもって幸せとするか、また達成度をどのように測るのかと思います。

目標自体は、多少抽象的ではありますが、今の段階ではこのような文章になると思います。議論の場が3回あるので、今後、もっと深めながら、意見を述べていきたいと思います。

初谷部会長

西田委員、藤本委員ともに、「幸せ」の意味や使われ方について、もっと議論を深めたいということでした。

新福委員

私も「幸せ」の定義づけが必要だと思います。個人的には、「心が満たされること」が幸せだと思います。「物が増えること」、「お金が増えること」、「人と交流すること」などを幸せと感じる人もいます。私自身は、心が満たされるためには、物やお金、情報、環境、人との交流が満たされることが大事だと思います。

人口減少を大きな課題と思っている人もいますが、私は、戦後急激に伸びてきた人口が減少するのは自然なことだと思うため、この点はどうなのだろうと思います。

「人口見通し」で、自然減と社会増ということで、転入者を増やすことが記載されていますが、特にどのような人に住んでもらいたいのかと疑問に思っています。例えば、地域活動や市民活動などの公益的なことを行ってまちづくりを進めてくれる人でしょうか。関係人口についても、どのような人に関係をもってほしいのかと思います。数字も大事ですが、質の部分をもっと明記できればよいと思います。「幸せ」ということを言うなら、数字だけでなく、質の部分がどこまで明記できるかが気になります。

地域分権として、6ページにおいて本来の自治として地域や市民に戻すということですが、それに合わせて行政自身が小さい自治体を目指すのかどうかも関連します。地域に分権を進めていくことは多く書かれていますが、行政が、大きい自治体を目指すのか、小さい自治体を目指すのかが、全体的に分かりにくい印象です。

植島委員

「幸せ」について、私も具体的なものが見えにくい印象です。5ページの「まちづくりの目標と取り組み方向」で、目標の説明はありますが、これがどのように幸せにつながっ

ていくかというストーリーが見えてきません。9ページの「幸せ成長のための都市づくり」も、都市づくりの説明はありますが、これがどのように幸せにつながっていくかを、具体的に分かりやすく記載すべきです。8ページの「共創と共生の地域づくり」は、これまでの総合計画において地域分権として地域のまちづくりで取り組んできた内容ですが、新たな総合計画では、今まで10年以上取り組んできて出てきた課題を踏まえてバージョンアップしたり、新たな手法を取り入れたりするのだと思いますが、この記載からは、市民にはそれが伝わりにくいと思います。

轉馬委員

久保委員から評価の話が出てきたので、補足させていただきます。第5次総合計画の数値目標は、分かりにくく誤解を与える面もあったため、今回は数値目標を出さないことにしました。ただし、まったく評価がないのもどうかと思うため、どのような形で目標や施策を評価するかを、本審議会で皆様のご意見を伺いながら考えていきたいと思っています。

熊本委員

2ページ目の下から3行目ですが、「多様な市民」として、「性の多様性」のことが触れていません。第3部会は、男女共同参画や女性活躍推進に関わる施策が合体していますが、この部会で女性は私1人です。すべての人という中で、性の多様性がどのように盛り込まれるかに関心をもっています。

社会経済環境やSDGsの指標が盛り込まれていることから、グローバルな視点が見えます。また、5ページの目標③では、「八尾の魅力が国内だけでなく世界に広がることで、優秀な人材の確保や企業の誘致のきっかけとなる」と経済的側面が出されており、目標④では「市民一人ひとりが資源エネルギーや地球環境を意識し」と環境の側面が出てきます。多文化共生社会や平和、国際交流が第3部会のテーマなので、総合計画の中で、国際社会の中での八尾市の位置づけや、発信などの視点が盛り込まれるのかどうかにも関心をもっています。

新時代、未来、将来、成長という言葉は、過去の歴史を見つめ直すことで見えてくるという個人的な思いがあるのですが、総合計画の中に、背景のような記載はいらないのかどうかと思います。冒頭に第5次総合計画を踏まえてというご説明がありましたが、第1次から第5次までの長い総合計画の歴史があるため、そこから将来、未来、成長が見えて、第6次総合計画が生まれると思います。第1次から第5次までを踏まえた背景が、どこで理念として書き込まれるのかと思っています。

また、総合計画の理念が、人口見通しの観点のみでよいか疑問です。八尾市の総合計画を八尾市の実態を踏まえて作るなら、10～11ページの人口の観点のみでよいか、他にどのようなことが盛り込めるのかどうかにも関心を持っています。

初谷部会長

新福委員、植島委員、轉馬委員からも、「幸せ」の定義、地域分権の取り扱いの問題、特に地域と行政の関わり方について今後どのように考えるか、また評価についてご意見がありました。

私からも感想を述べます。将来像の議論の前に、「総合計画策定の目的」、「八尾市を取り巻く社会経済環境」があります。1ページ目では、「市民」を「八尾市内に住み、働き、学び、又は事業を営む全ての人及び八尾市内に事業所を有する法人その他の団体をいう」と定義していますが、その後は、「多くの人が『住みたい、住み続けたい』と思うまち」と個人に着目した表現だけになっています。第5次総合計画の総括においても、法人、市民、団体が様々な活動をしており、特に民間企業の委員からも強いご提案があり、人が住み続けたいということだけでよいのか、もっと多様な団体がいきいきと活動する状況も必要ではないかと思っています。

2ページ目の「八尾市を取り巻く社会経済環境」では、先ほど新福委員述べられた人口減少に関する同じ意見ですので省略します。

3ページ目に地域コミュニティの内容について記載されていますが、第5次総合計画の特に地域のまちづくりについて総括を行った立場で申し上げますと、「地域コミュニティの変容」のところで、「まちづくりを進めてきました。しかし」と、課題につなげています。課題と対策は入れ替わり立ち代わり現れてくるものですが、第5次総合計画の総括、もっと遡って総合計画の歴史を踏まえて地域と市民を論じるのであれば、様々な課題があるからこそ、第5次総合計画で様々な取り組みを行って多くの実績を上げているものの、まだなお残っている課題があるという表現のほうがよいと思います。

「幸せ」については、皆様と同じ感想なので、省略します。

皆様のご意見を聞いて、さらにご意見がありましたらお願いします。

「幸せ」について、私から意見を述べさせていただきます。幸せを感じる主体の多様性や幸せの概念の多義性について、どのように意識して作られたのだらうと思いますが、多様で多義的であるからこそ、概念的なことしか書けないのかもしれませんが。「幸せ成長都市」は、今回の総合計画では、副題にも「八尾新時代幸せ成長プラン」とつけられているように、行政素案の重要なキーワードになっているように思います。「幸せ」について、他にご意見はありませんか。

先ほど、地域の負担がないことが幸せというご意見もありましたが、西田委員はいかがですか。

西田委員

幸せは勘違いする面もあります。心なのかお金なのか、また物なのかということがありますが、われわれも子育てで勘違いして、つい物を与えてしまうことがあります。お金の幸せはきりがありません。「小さい子どもにとって母親の愛情が一番の喜び」というよう

なことが、幸せの原点だと思います。そのため、つながりをもってお互いに気持ちを分かち合える環境づくりが、一番の幸せだと個人的には思います。極論ですが、必要以上のお金は邪悪になると思います。

初谷部会長

いろいろな考え方があると思いますが、あらゆる思いを受け止めて「ここに自分の思いも描かれている」と思ってもらえる総合計画が望ましいと思います。

藤本委員

「幸せ」を追求する権利が保証されていると言いますか、行政、社会がその環境を保証することが大切だと考えています。そのような意味で、排除や差別などがない社会であることが基本計画には具体的に記載されると思いますが、そのような追求権を保証する環境が整備されると、個々の幸せに向かうことができると思います。

私自身は、実は「成長しなければならないのだろうか」と疑問に思っています。成長の定義を聞きましたが、多少違和感があります。SDGsを否定しているわけではないのですが、SDGsについてあまり議論されないまま、唐突に出てきているように思います。

初谷部会長

SDGsというグローバルな視点をもつのはよいことですが、基本計画では記載されていますが、その前段階でSDGsに関して触れていません。国際社会の中での八尾市の役割の発揮のようなものがない中で、後半に急にSDGsと関連付けるのはもったいないです。せっかくの心意気なので、前半でもSDGsのことが描かれればよいと思います。

具体性をもたせるときには、事例で示すなど様々な方法がありますが、植島委員が「ストーリー」という言葉が使われたことで、なるほどと思いました。例えば、どのようなことが必要でしょうか。

植島委員

例えば、5ページの目標① 未来への育ちを誰もが実感できるまちには、子どもが成長することと、保護者や周囲の大人も、子どもの成長とともに学んで成長することの2つが目的に含まれると思いますが、子どもが見る幸せと周囲の大人が考える幸せは一緒なのかどうかと思います。「幸せ」を銘打つなら、もっときめ細かな表現があってもよいと思います。そうすれば、市民が読んだときに、理解が広がると思います。

初谷部会長

「幸せ」をこの総合計画の大きなキーワードとして前面に出すと、市民は、その意味や、「誰にとってのどのような幸せなのか」、「自分はここに入っているのだろうか」と考える

と思います。ストーリーを表現するのは難しいかもしれませんが、工夫して示すことが必要です。

第5次総合計画の総括で検討しましたが、評価は難しく本当に対象にふさわしい指標になっているかを考えて作らなければ、あまり効果がない面もあることから、改善が必要であることを提案しました。今回、基本計画には評価指標をなくしていますが、久保委員はいかがですか。

久保委員

数値だけが一人歩きしてしまう可能性や、その指標を上げるだけでよいかという問題があります。入れることでかえって難しくなることもあります。ただし、何もなければ、何をすればよいか分かりません。

別の観点で考えてみたのですが、インターネットがなぜこれだけ発展したのかを考えると、誰も使い方を教えなかったからだと思います。ITに詳しい人は、プログラムから入るべきと言っていましたが、ウェブやメールを使うだけでも、またメールで写真を送るだけでも楽しめました。このように、許される状況が増えれば増えるほど可能性が広がることを評価できればおもしろいと思います。何かの方法を導くだけでなく、可能性が広がることを行政の立場で評価すれば、市民にも分かりやすくなり、期待感をもってもらえると思います。

初谷部会長

今の発想は面白いと思います。あらかじめ評価指標を決めるのではなく、自由な市民の動きの中から生まれてきたものを、「これはこのように評価すればよい」と議論して評価していくというご提案です。

轉馬委員

非常に面白い発想だと思います。具体的にどうすればよいか、技術的には悩みますが、そのような考え方も参考にしながら考えていきたいと思っています。

初谷部会長

総合計画は、本来まちの役に立てるように作るものなので、成果を図る際にも積極的に能動的に評価することで、「やってよかった」、「益々やる気が出た」となるような指標が生み出せばよいです。すべて一律に同じ指標で測る必要はありません。

地域に関する問題は田中順治委員と西田委員から出されましたが、後ほど施策のところでも議論しますので、基本構想についてひとまず終了いたします。

(3) 八尾市第6次総合計画（行政素案）基本計画について

初谷部会長

事務局より説明願います。

事務局

(資料 2、6、7 説明)

初谷部会長

基本計画についての審議は、説明にありましたように、「V. 1. 横断的な視点によるまちづくりの実践」は第 2 回の部会で、また「V. 2. 共創と共生の地域づくりの実践」は第 3 回の部会で議論するものとし、先に、各施策の内容から意見交換をしてみたいと思います。

事務局から説明がありましたが、資料 6 の表は、資料 2 の行政素案の 20 ページの表に差し変わることです。資料 6 と 20 ページの違いは、縦軸は同じですが、20 ページでは横軸の目標が①、②などの番号しか記載されていないため、その内容を書き加えたものが資料 6 です。

各施策に入る前に、15～18 ページについてお気づきの点をお聞きしたいと思います。

話題を提供する意味で、私から述べさせていただくと、「横断的な視点によるまちづくりの実践」についてですが、昨年度の審議会で第 5 次総合計画の 63 施策を検討しましたが、今回は、20 ページに記載があるように、その約半分の 34 施策です。資料 6 の縦軸に「分野」として書かれているものが行政素案で想定している分野です。資料 2 の 15 ページの「①分野横断的な対応の推進」は、例えば、「安全安心」の取り組みをするにしても、それが「福祉」、「人権平和とコミュニティ」、「行財政運営」などどのように横断的に行っていくかを強く意識しながら行うことと読み取れますが、そのような理解でよいのだろうかと少し疑問に思っています。こういった感想など、今後の検討の手掛かりになるようなご意見をお聞きできればと思います。

田中順治委員

自治組織がしっかりしていれば、防災も防犯も問題ないのですが、先ほども申し上げたように、組織の長が短期間で交代するような地域は心配です。私は生まれてからずっと今日まで同じ地域に住んでいます。長い年月の間に、大きな病気をすることもありましたが、近所の人がいつも気にかけて声掛けしてくださり、幸せな地域に住んでいると思っています。同じような事例が他の地域にあるかどうか分からないのですが、ある人が「子どもがどこかに行って帰ってこない」と言うと、すぐに近所の人が 30 人ほど集まって一緒に探しました。高齢者の行方が分からなくなったときも、すぐに近所の人、自分の家を空けてでも探していました。このような地域に住んでいて、私は幸せだと思います。このようなことは古いことかもしれませんが、古いことにもよさがあることを、この計画の中に入れて

いただきたいと思います。

初谷部会長

自治会の方々も代表の方々も頑張ってくださっていると思いますが、先ほど、長が1年で交代されることを懸念されるご意見がありました。そのような中、声を掛ければ1～2人どころか、30人もの方が集まって一緒に動いてくださる地域の大切さについてもお話していただきました。これは、17ページの「共創と共生」を体現するような地域です。

一方で、自治会の加入者が減少して大変というご意見もありました。ここ何年も八尾スタイルのまちづくりの取り組みが随分進んできています。17～18ページでは、このようなことについても、成果を見てしっかり見直ししながら取り組んでいきたいということです。田中順治委員から、地域の古い絆を、校区まちづくり協議会などの新しい仕組みにどのようにプラスさせていくのかということを示唆していただきました。

西田委員

体制づくりについては、自治振興委員会でも悩んでいるところです。町会費が発生するため、お金を収めている方のことを町会員と言っていますが、「その地域に住んでいる全員が町会住民」という考え方に変われば解消できるが増えると思います。これは自治振興委員会との議論における必要な大きなテーマです。地域柄と言ってしまうまでもありますが、町会費のあり方や考え方も、皆違います。その辺りを統一しなければ、校区まちづくり協議会と連携できないと思います。

資料6の分野別の施策についてですが、この施策名で八尾市役所の中で横の連携は取れるのでしょうか。同じ分野であっても1つの施策で各課がバラバラに動くと、せっかく地域が横のつながりを作ろうとしても、「この件はここ」、「この件はあそこ」と、横の情報が流れないことが懸念されます。分野別の横のつながりがすべてできるかどうか心配です。

初谷部会長

分野横断には、例えば、「次世代育成」と「都市形成」の分野横断はどのような意味をもつかなどがあります。また、西田委員が言われたように、「次世代育成」の4本の施策は所管がそれぞれ異なるため、横断的に取り組んで相乗効果を発揮するためには、どのような体制がふさわしいかという問題もあります。具体例をイメージしたときに、なかなか思い浮かびません。この点も、第3回目の部会で詰めていかなければならない点です。ただ今のご意見に対する回答は、次回でも第3回目でもよいので、行政の考えをお聞きしたいと思います。

具体的な施策の議論に入る前に、1点修正箇所を指摘させていただきます。18ページに総務省が行った研究会の報告書の引用部分がありますが、総務省の報告書でも、「基礎自治体」、「基礎的自治体」、「地域自治組織」、「地域運営組織」などと定義を定めて使い分けを

しているため、引用部分についても、原文と八尾市が目指すところの意味合いを検討した上で、引用するほうがよいです。

34 施策について、それぞれ目指す暮らしの姿と現状があり、両者の格差を課題ととらえて基本方針につなげています。そのような目で見たときに、施策毎に「これでよいか」、「文言として十分か」、「もっとこのようなものもある」などのご意見をいただきたいと思います。

<施策 No. 6 歴史資産などの保全・活用・発信>

久保委員

全体の話につながるかもしれませんが、歴史資産に関して、「こんな面白いものがあったのか」、「こんなすごいものがあったのか」と市民が驚きを感じれば、かなりプラスになると思います。私は八尾市民ではないのですが、八尾市に来る度に、「河内音頭の発祥はここだったのか」などと発見して驚きます。そのような「伝える」ことがつながっていくことで、プラスになります。その際の活用方法としては、大学や民族学博物館の人が来て分析して市民に発表するなどのつながりができれば、横断的につながっておもしろいと思います。今のままでは、各課で考える妥当で安全な案にとどまってしまうため、それを超える仕掛けづくりが必要です。

初谷部会長

基本方針は基本計画レベルで、その下に実施計画として、さらに細かい具体的なものぐら下がっていきます。久保委員が言われたのは、基本方針の書きぶりが抽象的でイメージが湧きにくいということですか。

久保委員

この書きぶりが悪いということではありません。具体的な方向性を検討する際に、他からの意見を取り入れたり、気づきを与えるなどの工夫があればよいということです。

初谷部会長

ただ今のご意見のニュアンスをわれわれはこの場で直接聞いていますが、文章でしか読めない人のために補足しますと、事業に出くわすまで分からないというのではなく、市民や内外の人が、八尾市には素晴らしいものがあることに気づいたり驚いたりして、そこから喜びや誇りにつながるものも書き込んでどうかというご意見でした。

熊本委員

「わがまち推進計画」、「分野横断」、「まちづくり」、「つなぐ」が、第6次総合計画のキーワードとして、地域の歴史的資源を生かしたまちづくりのような形で観光のところに

てきますが、都市計画や防災、文化芸術、環境、産業、教育などの様々な分野に横断して、さらにわがまち推進計画で、それぞれの地域の歴史的資源を生かしたまちづくり、まち歩きとして、NPOやボランティアを支援していくことも盛り込んではいかがでしょうかと思います。いかがでしょうか。

初谷部会長

本日はご意見をいただく形にして、第2回目の部会で議論したいと思います。

私からもお願いがあります。すべて同じことが言えるのですが、「現状と課題」の課題にあたる文章についてです。[歴史資産の保全]の「少子高齢化の進展により」から始まる文章と、[歴史資産の活用・発信]の、「日常的に利用できるように」から始まる文章は、語尾が「求められています」となっています。他の施策でも、「必要です」と、他人事のようになっているものがあり、読んだ人にそう受け止められてしまうのではと思います。中には、語尾を「課題です」と明確に言い切っているものもあります。世の中に様々な問題や必要なものが蔓延している中で、八尾市が行政として何を課題として取り上げるかを整理して明確に掲げたほうが、ストレートに伝わって八尾市の心意気を感じるものになると思います。

<施策 No. 8 文化芸術の振興>

熊本委員

全体に共通することですが、これも「分野横断」、「まちづくり」、「つなぐ」で見ると、教育、大学の話も先ほど出ましたが、福祉との関連で言うと、障害者が文化芸術を通じて社会参加するなどの、八尾市として新たな文化芸術を作ることがあってもよいと思います。また、第3部会は多文化共生、国際交流も担当なので、多文化共生での文化のつながりや、企業との連携により人材育成を文化芸術分野で行うなど、「つくる」ことが1つの方向性として見えると、非常にワクワクします。

新福委員

基本方針④の観光振興と連携した動きとして、会議を行うためにすでに観光協会が動いておられ、今後NPO法人としても参画していく予定です。

「施策 No. 6 歴史資産などの保全・活用・発信」についてですが、八尾市には、高安千塚古墳群として、山間部に古墳が300以上あります。施策 No. 7にもありますが、森林の中にも古墳があります。今年度から森林環境譲与税が始まりますが、財源はまだ確定していません。聞いている範囲では、住民税1,000円を6,000万人が納税することで、全国で600億円程度になるということです。人口割や森林面積割、林業の就業割でどうなるかはありますが、整備するところには古墳群があるところもあります。私も12年半、森林整備をしていたときに、古墳が2基ありました。そのようなことから、森林整備で人材育成しなが

ら、古墳の整備にもつなげていくことも考えてはどうかと思いました。

歴史民俗資料館の名前が挙がっていますが、歴史民俗資料館も後継者不足です。館長は定年を過ぎていますが次の担い手がないことや、人材採用ができない指定管理の苦しさがあります。ここもボランティアなどの市民サイドに委ねるのか、施設で人材育成するのかを検討しなければ、「歴史資産などの保全・活用・発信」に寄与するには、大変な状況であると不安に思っています。

「施策 No. 8 文化芸術の振興」についてですが、東大阪市に文化創造館ができましたが、プリズムホールよりかなり大きいと聞いています。芸能プロダクション関係のところが指定管理者なので、従来、プリズムホールで誘致できた方々が東大阪市を優先するようになった場合、プリズムホール独自で、市民目線で市民も交えた催しや取り組みができるかが、ポイントになります。近鉄八尾駅に行くと、プリズムホールやリノアス、アリオ八尾などを目的に近鉄電車に乗って来る人がいるため、プリズムホールも、観光や外から人を呼び込むための貴重な施設だと思います。

初谷部会長

事務局には少し無理なお願いになるかもしれませんが、施策の議論をこの資料を見ながら行くと、どのように目線を動かせばよいか難しいです。「めざす暮らしの姿」、「現状と課題」、「基本方針」が縦に並んでいますが、見開きページで4列にして、一番左に「めざす暮らしの姿」を置き、右方向に「現状」、「課題」、「基本方針」の順に並べると、目線の動かし方として、「こことここがつながっている」、「この部分は空白になっている」ということが分かりやすくなります。

「施策 No. 6 歴史資産などの保全・活用・発信」で言うと、人材の問題で、「護る人が減少しており」と課題の認識はあるのですが、「基本方針」で人材への対応が書かれていないため、課題のまま宙に浮いてしまうのではと思ってしまいます。最終的なまとめ方は、このように1ページでコンパクトになるかもしれませんが、議論を深めるためには、「めざす暮らしの姿」と「現状」、その差を埋める「基本方針」が、どのような言葉でつながっているかを整理していただいたほうが、より議論しやすいです。

<施策 No. 27 一人ひとりの人権が尊重される差別のない社会の推進>

熊本委員

先ほども申し上げたように、前回の第5次総合計画のときには、八尾市として女性活躍推進に力を入れると聞いていましたが、それがこの施策に合体した状況になっています。施策をできるだけ減らす方向だとは思いますが、障害者、高齢者、外国人、子どもなどの対象別であることを鑑みると、昨今の性の多様性の視点が、「男女共同参画」というの數行の内容でよいかということが大きな点です。

いじめに関しては、子どもを守ることも大事ですが、「人権」の施策なので「子ども自身

が権利の主体者」であるために、子ども自身が権利について学べるような記載も必要です。

初谷部会長

「現状と課題」で、見出し毎に現状と課題の認識が明確に書き分けられています。それぞれが同じボリューム感の書きぶりになっていますが、男女共同参画の問題を、他と同じ見出しレベルで並べてよいかという問題提起です。組み合わせ方は様々にあると思います。資料6を見ると、この施策はどの目標にも関連していますが、そうすると、目標② もしもの時への備えがあるまちには当てはまらないのかと思ってしまいます。災害時の人権の問題については避難所などいろいろな場所で上がってきています。

<施策 No. 28 平和意識の向上>

熊本委員

「めざす暮らしの姿」で、現時点における「国際社会の平和と安定の維持」とあり、「現状と課題」のところでも、「国際社会情勢が不安定であり、平和の大切さが改めて問われています」と出てきます。基本方針で言う「戦争」とは、第二次世界大戦のことだと思いますが、国際社会の平和と安定に、八尾市がどのように発信していくのが、問われると思います。

施策によって関連計画があるものとなないものがありますが、ないものは、今後何を参照してどのように施策を考えるべきかが見えにくいです。関連計画がないものについては、どのように考えればよいでしょうか。

事務局

関連計画について、現時点の考え方をご説明いたします。関連計画がないものもありますが、ほとんどの施策に関連計画があります。例えば、「施策 29 多文化共生の推進」は、「八尾市多文化共生推進計画」が関連計画で、その中に細かいことも含めて記載されています。関連計画がない「施策 28 平和意識の向上」については、基本構想を受けた基本計画の内容を具体化する実施計画で完結することになりますが、熊本委員の疑問を解消するためにも、必要なことをもっと書き込むべきだと考えました。次回には、もう少ししっかりと回答できるようにします。

初谷部会長

総合計画としてかなりの年数を見通したものは、「戦争を知らない世代」、「若い世代」などの「世代」が、年齢と共に移行していきます。第二次世界大戦の終戦から70年以上経つため、太平洋戦争や第二次世界大戦に限って言えば、戦争を知らない世代と知っている世代の区分けはできます。しかし、今の時代を生きている市民は、直接戦争を経験してなくても、ベトナム戦争など同時代に世界で起きていた戦争の問題を、国際情勢の1つとし

てとらえています。そのような観点で考えると、ここで言う「平和意識の向上」が、太平洋戦争の語り継ぎのみでよいのかと思います。総合計画のような8～10年スパンで考えられるものは、この表現に工夫が必要です。われわれも、太平洋戦争は知らなくても、リアルタイムで起こっている様々な国の戦争は知っています。そのようなことをどう考えるかも教育の問題です。この施策には、古風と言うと語弊があるかもしれませんが、従来のスタイルだけでよいのだろうかと感じます。

＜施策 No. 29 多文化共生の推進＞

初谷部会長

首都圏など様々なところで在住される外国人が増えており、かつて「多文化共生」という言葉が初めて語られたときに比べて、今後何年かの間に、多文化共生のとらえ方や広がり大きく変わっていくものと思われますが、いかがでしょうか。

久保委員

多文化共生だけでなく、今後様々な事業をされると思いますが、34 施策について「推進週間」のような形で、1年の間に、週毎に1つずつテーマを決めて、集中して推進することはできないでしょうか。様々な施策を行っても、なかなか伝わってきません。市の広報のような形で、「この週は多文化共生」、「この週は平和意識の向上」などのように、そのテーマにふさわしい情報を啓発として発信してはどうでしょうか。他のテーマはできるだけ抑えて、選択と集中として展開するのもよいと思います。

田中順治委員

国際交流について意見を述べます。八尾市は、アメリカのベルビュー市と姉妹都市、中国の上海市嘉定区と友好都市の提携を結んでいます。姉妹都市提携協会も日本中国友好協会も、最近、会員数が難しくなっています。それには、会費がかかることと英語が大きな問題となっています。私も関わっているのですが、昔は学校教育で英語を習わなかったため、英語で話ができないことが国際交流における弱点になっています。最近、中国から中学1年生が交流で来日してきた際に話をしたところ、将来の目標はパイロットや弁護士など、大きな目標をもっていました。「姉妹・友好都市との交流事業において、参加者数が減少傾向にあり」とありますが、その背景には会費と英語が話せないことが大きな問題としてあります。

初谷部会長

課題のところ、ただ今の問題も触れてはどうかというご提案です。

西田委員

ここにもっと目線を向けなければならないということで、現在、観光協会と、インバウンドを考えた委員会を開催しようとしています。アメリカのベルビュー市と姉妹都市の提携をして 50 周年になるかと思います。50 年前は、ベルビュー市と八尾市がほとんど肩を並べていましたが、今は大きな差が出ています。今まで国際交流していても、単に交流しているだけで、何も学んでいなかったのだと驚きました。そのような情報がなかなか流れてきません。外国だけでなく、八尾市は他と比べてどうかを比較して、よいところは見習って成長していけるような共生の推進を図っていくことが必要です。「多文化共生」という言葉は、差をつけているようであまり好きではありません。「インバウンド」も好きではありません。既に多くの人がおられるため、「共に暮らしている」という意識をもつほうがよいと思います。

初谷部会長

ただ今のご意見は、改めて「多文化共生」を掲げるのではなく、もうこれは前提になっているということだと思います。「多文化共生の推進」というテーマの掲げ方がよいのかという問いかけでもあります。

時間になりましたので、本日の議論はこれで終了します。次回は、「施策 No. 30 地域のまちづくり支援・市民活動の促進」から本日と同様に議論を行います。

4. その他

(1) 今後の予定

事務局

1 点目は、次回の予定です。資料 1 裏面をご覧ください。次回の第 3 部会についてですが、委員各位におかれましてはご多忙のところとは存じますが、12 月 23 日（月）18 時 30 分から八尾商工会議所会館 3 階セミナールームにて開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

2 点目としまして、ご意見シートについてです。本日ご説明いたしました資料 5 のご意見シートにつきましては、本部会での審議対象外となる施策についてのご意見がございましたら、次回の各部会の開催に先立ち、12 月 2 日（月）までに事務局へご提出をお願いいたします。なお、いただきましたご意見につきましては、一覧にいたしまして、第 1 ～第 3 までの該当する部会の審議にかけさせていただきます。記入枚数の不足やデータファイルでの送付等、ご不便な点がございましたら、事務局までお知らせください。その他の資料につきましては、次回以降の会議に際しましても使用いたしますので、お手数ですがご持参ください。

最後に、総合計画策定に向けたスケジュールと市の動きについて紹介させていただきます。去る 7 月 1 日の第 1 回全体会で総合計画策定に向けたスケジュールをご説明しましたとおり、行政素案につきましては、総合計画審議会で 11 月から来年 1 月まで専門部会でご

審議いただき、その後、正副部会長調整会議ののち、必要な修正を施し、2月から3月にかけて市民に対しパブリックコメントに付す予定です。

来年3月末あるいは4月に第2回全体会を開催しまして、パブリックコメントの結果をご報告するとともに、答申案のご確認をいただきます。審議会から市長に答申をいただきました後、すみやかに行政案としてとりまとめ、来年度の市議会で審議をいただき、最終的な総合計画案のとりまとめを図ってまいりたいと考えております。

（２）市議会でのご意見の紹介

市議会では、今年度から総合計画策定調査特別委員会を設けられ、市議会として総合計画策定に向けて責任ある議決を果たしていくため、特に調査し議論をすることとされています。本日の部会の開催に先立ち、11月11日に開催されました、八尾市議会・総合計画策定調査特別委員会において、行政素案及び総合計画審議会における今後の審議日程を報告しましたところ、行政素案についてご感想、ご意見が示されていますので、その概要を紹介いたします。なお、詳細は、ホームページに掲載されております特別委員会の動画で、自由にご覧いただけます。

それでは項目ごとに紹介いたします。

まず、八尾市を取り巻く社会経済環境については、資料2の2ページに、特に市が意識すべき事項について記載しましたが、「表現が行政だけのための計画と読み取れる表現になっていないか」というご意見がございました。

次に、八尾市の将来都市像については、3ページに、市民が幸せと成長を感じられるまちはこのようなまちであるというところを意識して記載しましたが、「もっと簡素な表現に」、また「どんなまちになるのかももっとイメージが湧くようにしてほしい」というご意見がございました。

横断的な視点によるまちづくりについては、7ページに縦割りの行政について横の連携を意識した計画にしていくという意図で記載しましたが、「横断的な進め方はよい」というご意見の一方、「責任の所在が明確でなかったり、部局間の調整が煩雑になったりするのはないか」、「施策にもれはないのか」というご意見がございました。

共創と共生の地域づくりについては、8ページに、地域分権の次として、その理念を継承しつつも今まで以上に人とひととのつながりを大切にしていくという方向性を打ち出したつもりですが、「言葉の意味が分からない」というご意見がありました。また、「地域コミュニティの衰退があるからこそ、本市における小学校区を単位とする地域のまちづくりの展開がされてきたのでは」というご意見や、地域に出向くことや出張所の今後の役割についてのご意見もありました。

人口見通しについて、10ページにおいて、「八尾に関わってもらう人や八尾に住み続ける人を増やし令和10年に推計人口から1万人増にする」との記載があるが、この計画からはその取り組み状況が読み取れない」というご意見がありました。

計画期間については、13 ページにおいて、時代の変化に対応して8年としましたが、「時代の変化に対応とあるが、本来普遍的なことを総合計画に書くのにその考え方はなじむのか」というご意見がございました。

共創と共生の地域づくりの実践の中で、18 ページでは、地域においても活動の振り返りをしていただきたいということで記載しましたが、「PDCAサイクルについて地域活動で可能なのか」というご意見がございました。

また、施策の指標表示ですが、1 指標の結果が施策の評価全体を表していないという理由で、指標表示はしておりませんが、「指標があることで分かりやすい面もあった」というご意見がございました。

その他全体的なご意見として、「八尾がどう変わるかという夢が基本構想から感じ取れない。抽象的である」というご意見や、「市民と『未来のやお』を一緒に作っていくということが読み取れる文章にしてほしい」というご意見もいただきました。さらに、「女性、若者、外国人、障害者の視点や、教育、文化の視点が構想には弱い」、「第5次の総括報告書に八尾市は市民力が強く学校はプラットフォームだとの記載があるが、第6次では学校の表記が弱い」とのご意見をいただきました。他にも、「行政経営をする中で、計画は、国・府の補助金を取りに行く際のツールとなるので、戦略的な策定が必要である」というご意見もいただきました。

このように、市議会におきましても、新たな総合計画策定に向けて大いに関心を持たれており、審議会において、行政素案について議論を尽くしていただけますよう期待が寄せられております。今後とも市を挙げて、新たな総合計画がより良いものとなりますよう努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご審議のほどよろしく願いいたします。

初谷部会長

今後、案がまとまりましたら、市民にお諮りする機会がありますが、それに先立つ形で、市議会でも総合計画の作成をしっかりと見守っていく動きがあるようです。そこで出されたご意見の紹介がありました。

5. 開会

初谷部会長

これをもちまして、「第1回 八尾市総合計画審議会 第3部会」を終了します。

以上